

---

# ハワイ地域におけるコミュニティの創生と政策課題

---

2002 年度研究入門フォーラム アメリカ（ハワイ州）プロジェクト

担当教員：稲葉光行

はじめに（牧野利哉）

1. ハワイにおけるホームレス問題とエスニシティの関係

1-1 問題意識（折井耶澄）

1-2 仮説（折井耶澄）

1-3 現地調査（柴田朋仁）

1-3 調査結果と展望（大山牧子・佐渡島晋平）

2. 観光産業政策の転換期を迎えるハワイ 新たな視点の創出

2-1 問題意識（森裕介）

2-2 調査活動（細川八恵子）

2-3 調査結果（梅本千春）

3. 政策提言 - それぞれの視点から - （林芳生・松田悠里）

3-1 ホームレス問題について

3-2 観光政策について

3-3 全体を通して

おわりに（初澤友絵）

付： ホームページ概要（染谷尚孝・那須行信）

## はじめに

ハワイと言えば、未だ日本人に親しみのある常夏の楽園を想像する人がほとんどだろう。小麦色の肌のたくましい男たちとレイをかけた女たちがフラダンスを踊り、夏休みや正月をハワイで過ごす芸能人が溢れ、みんなブランド物のお土産を買って帰ってくる。多くの日本人のハワイに対するイメージは大半がこの様な感じだろう。

私たちも同様のハワイのイメージを持っていた。実際ワイキキには日本語表示の看板があふれ、日本語がとびかっている。まさに日本の48番目の県のような。そのため何が問題点かをすぐに発見する事が困難であった。しかし、歴史を見ると、現在の観光地に至るまでのハワイは、先住民であるハワイアンがいた事が原点であり、そこから様々な歴史を経て現状に至ったと言う事が分かった。そんな徐々に多民族社会になったハワイにおいて、歴史背景を頭に置きながら対内的な問題とそこから広がる対外的な問題に着目した。

そこで私たちは、下記の二つの問題に取り組むことにした。一つ目のホームレス問題は、ハワイでの現在の社会的問題のひとつである。ハワイのホームレス問題は、実際に人種問題や歴史背景が関わっている。キャプテンクック介入以来のハワイでの民族間の対立も見えてくる。ここでは先住民であるハワイアンの歴史的背景について触れながら、現在のホームレス問題が本当に人種的な問題が関係しているのかを調査し、ハワイの内部を探る。

二つ目の観光についての問題は、ハワイの内現状を知った上でこれからのハワイの展望を見る。そこでハワイは対外的なアプローチはどうであるかを探る。ハワイは実際に、観光産業を軸として経済が動いているといっても過言ではなく、この観光政策を考えることによって、これからのハワイを見ることができるのである。そこでハワイへの旅行者は近年減少していることに対して、「ハワイの観光政策は観光客のニーズにあっていない」のではないかと、仮説を立てて調査していく。

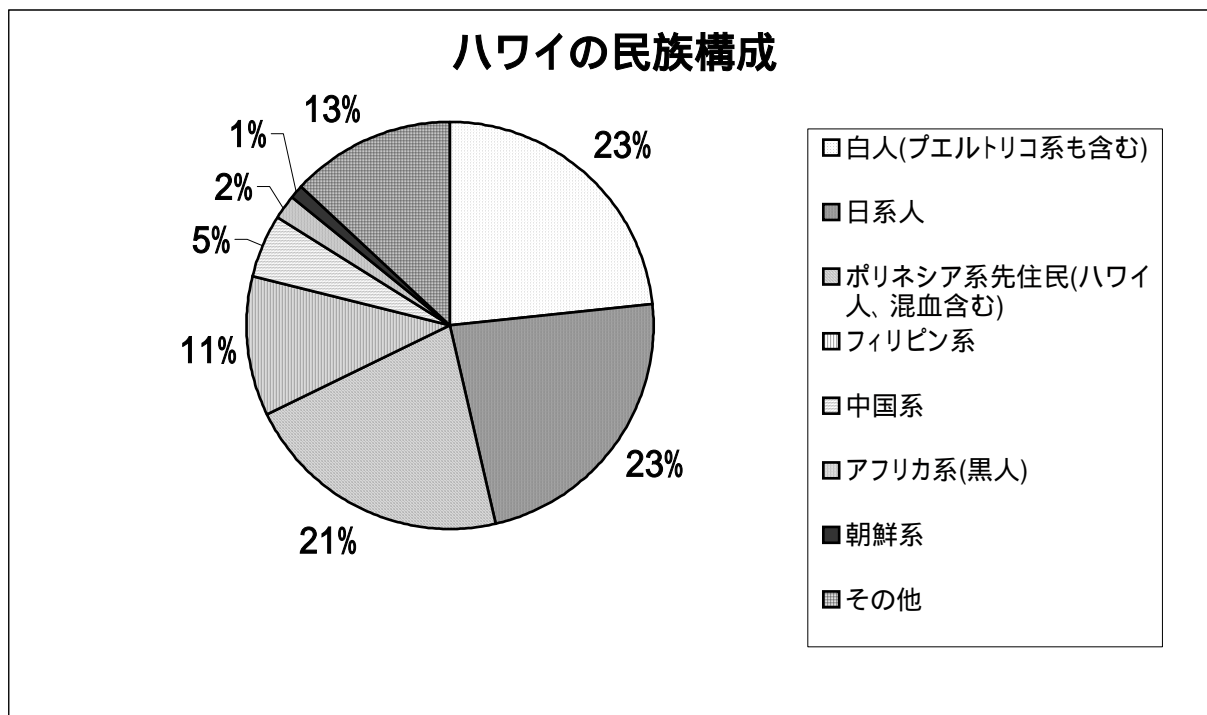
様々な歴史背景の中でハワイは現在人種のるつぼと呼ばれている。島国で1言語・1民族の日本に属している私たちにとって考えられないような問題が起きたりする。調査をするにあたって今持っている民族先入観を捨てて調査したいと考えている。

また、これら2つの問題を、内部事情から世界へ向けて視点を広げ、様々な角度からアプローチし、自分たちなりのハワイに対する想いをぶつけながら今後の展望を立案したい。また、ハワイアンのアイデンティティ、またアメリカの中のハワイとしてのアイデンティティの関連性を掘り下げて行きたい。

## 1. ハワイにおけるホームレス問題とエスニシティの関係

### 1-1 問題意識

ハワイの歴史的な社会背景から、対内的な問題としてはハワイアン達の危機的な状態があげられる。1776年のキャプテンクックによるハワイ諸島の地図上の発見以来、押し寄せてきた白人達によって、ハワイアン達は土地を奪われ、また、その白人達をもたらした病原菌(主に梅毒やコレラ)によって、ハワイアンの人口は激減した。さらに、ハワイアン独自の王朝であるハワイ王朝も白人の力によりアメリカに武力併合され、ただの少数派となったハワイアンの社会的な地位はさらに弱いものとなり、そのことが現代にも非常に大きな影を落としている。ハワイに暮らすハワイアンの割合は全体の約 21%。しかし、ハワイアンのホームレスに占めるハワイアンの割合は 40%とも 60%とも言われている。また、一部の地域においては、さらに高い比率を占めているという場合もある。土地を奪われ、長期に渡って非常に貧しい暮らしを強いられてきたハワイアンは現在でも社会的に強い地位にはいない。



山中速人『ハワイ』より(1992年)

また、かつて白人達が宣教したキリスト教がハワイアン達の間にも普及し、キリスト教的見地から、さらに白人による支配体制を確立するための手段として、ハワイアン独自の宗教や文化などを禁止していったため、それらの一部は永遠に失われた。また、自給自足を原則としていた彼らの生活も、白人に土地を奪われたことで一変し、多くの人々が白人の経営するさとうきびや、パイナップルのプランテーションに、生活の糧を得るため、低賃金で働くことも余儀なくされた。また何世紀にも渡って続けられてきた生活習慣も、一部の地域を除いて完全に失われた。現在でも日本などの、海外企業によるハワイの観光地化促進のために、ハワイアンにとって宗教的に重要で神聖な土地が奪われたり、彼らが代々住み続けていた土地を急に追い出されたり、墓所があった土地が奪われその上に、観光客用

のホテルやゴルフ場ができたりするなどして、現在でも残る宗教的な行事や習慣を維持・継承していくことも困難な状態にある。

私達はこれらのハワイアンに関する問題をハワイアンホームレスに注目して見ていくことにした。アメリカ本土のネイティブ・インディアンに関する問題にも多数共通するものがあると考えられると思うが、『現在、なぜネイティブである彼らの多くが究極の社会的弱者とも言える、ホームレスにならざるを得ないのか』ということの原因を追求し、彼らがホームレスになる過程を見ていくことによって、現在のハワイアンに関する問題の根底にあるものや、その解決策などが見えてくるのではないかと考えたからだ。

## 1-2 仮説

私達は前述したハワイアンホームレスの問題の原因に対して、『ハワイアンのホームレス問題の背景には現地の住民のハワイアンに対する人種差別が大きくかかわっている』という仮説をたてた。

私達がそう考えた理由として、おおまかに以下の二つの理由があげられる。

白人支配により、土地を奪われるなどの悲劇的な背景を持つハワイアン達の多くは現在でも社会的にも経済的にも厳しい状態にある。社会的な弱者であるハワイアンの若者たちは、麻薬などの犯罪に走りがちで、そのため現地ではハワイアンという民族に対する悪い印象が持たれがちであるということ。

で述べたような理由とも関わってくるのだが、ハワイアンは現在の厳しい状況に加えて、もともと伝統的に自給自足の非常にゆったりとした生活を営んでいたため、近代国家ではすでにあたりまえのように見られている、勤勉に学問を身に付けて、社会進出を果たし、成功をつかみ、良い暮らしをするために昼も夜も働こう、という意識が多くのハワイアンには薄く、政府や、民間の団体がハワイアンの学ぶ為の環境を整備しても現在の所あまり成果があがっていない。また一方で、そのようなハワイアンの姿を見て、現地に住んでいるこのような習慣がすでに根付いているハワイアン以外の民族の間では、ハワイアンはまじめに働かない民族であるという印象をもたれがちだということなどがあげられる。これらが原因で、ハワイに住む人々がハワイアンに対してマイナスのイメージが確かに存在していると考えられる。ハワイアンのホームレスが増加する原因として、多民族社会であるハワイに住む人々の、それぞれの意識、文化、生活習慣、歴史的背景などの違いから生み出される摩擦がある。それは、ハワイアンに対する何らかの人種差別が存在し、そのことがハワイアンの就職差別につながるのだ。また彼らの多くが職に就くことを難しくなるような状況を作り出し、収入を得る事が難しい状態にあることで、彼らの一部がホームレスにならざるを得ない状況が作り出されていると考える。

## 1-3 現地調査

私たちが立てた仮説が正しいかを調べるためにハワイを訪れた。仮説を調べるにあたって、ハワイアンについて詳しく理解するためにポリネシアン文化センターやピッシュョップ

博物館を訪れ文化・習慣などを調べ、ハワイ大学やミッションハウス博物館でハワイの歴史について学んだ。また、ホームレスの現状を調べるためにホームレスシェルターを訪問した。

### 1-3-1 ポリネシアン文化センター・ビショップ博物館

ポリネシアン文化センター・ビショップ博物館では、キャプテンクック到来以前のハワイの文化・習慣について調べた。その結果、ハワイアンについての文化・習慣について多くのことがわかった。

ハワイアンとは、18世紀末のキャプテンクックによる世界周航によってハワイが「発見」される以前からハワイ諸島に先住していたポリネシア系先住民を祖先にもつ人々のことである。キャプテンクック到来以前のハワイアンらは厳しい階級制度を持った社会を構成していた。アライと呼ばれる王族と、カフナと呼ばれる神官が構成する貴族社会があり、その下にマカアイナナ（平民）、そして一番下にカウバ（奴隷）がおり、アライの中からアライ・ヌイ（大王）が選ばれ、島ごとに1人または2人のアライ・ヌイがおり、支配体制を作っていた。この体制の下には、カプー（禁制）があり厳しい取り締まりの中で人々は生活していた。例えば、ハワイアンの主食、ポイの原料であるタロ芋の畑は女人禁制で、一定の種類魚をある期間だけ一定量捕らえることは許されたが、その他の魚を捕ることはタブーであった。男女が同じ屋根の下で席を共にして食事することを禁止したのもや、アライの影を踏んだというだけで死刑に処せられるといったものもあった。ハワイのように極めて限られた天然資源の下で、多くの人々が生存を維持するためには、どうしても環境保全の誓約や日々の暮らしの誓約、分業の確立などいろいろな形の誓約が必要であり、カプーという制度が作られた。また、彼らはハワイでは生活に必要なもの、自分たちを助けてくれるもの、自然の力といったものをアクア（神）として崇め宗教の対象とするという習慣の他に、文字を使う習慣がないため歴史などを口頭で伝えるという習慣も持っていた。

### 1-3-2 ハワイ大学

ハワイ大学では、ハワイアンの研究を行っているジョン・マツオカ教授の講演を聞くことができた。講演の内容はキャプテンクック到来以降のハワイの歴史であった。

キャプテンクックが到来する以前のハワイにはおよそ30万人のハワイアンが住んでいた。しかし、到来以降ハワイには数多くの白人が訪れるようになり、そのたびに持ち込まれた病原菌により、わずか5万人程度にまで激減したこともあった。白人がハワイにもたらした悲劇はこれだけではなく、文化・習慣の破壊も行われた。ハワイアンが環境を考えて作り出したカプー制度を崩壊させ、自然を崇拝するという習慣も失わせることとなった。ジョン・マツオカ教授にはハワイアンの歴史だけでなく、現在のハワイのホームレス問題についても聞くことができた。ハワイアンが就職の際に差別されることは実際に行われており、それがハワイアンがホームレスになりやすい原因の1つとのことだった。

### 1-3-3 ミッションハウス博物館

ハワイアン側からの視点だけで調べては、偏った考えになるのではないかと考え、白人側の視点から調べるためにミッションハウス博物館を訪れた。（ミッションハウス博物館ではアメリカ人のハワイにおける宣教活動、宣教師がハワイを訪れてからの歴史の紹介を行っている。また、宣教活動によって形成された白人とハワイアンの関係についても紹介し

ている。)私たちはここで、ハワイ大学でジョン・マツオカ教授から聞いたキャプテンクック到来以降のハワイの歴史を調べた。白人側からの視点からハワイの歴史を見てみると、次のような結果となった。

多くのハワイアンが、クック到来より西洋から持ち込まれた病原菌により死亡した。これに対し、ハワイアンは「外国の病気にも勝てない自分たちの神様は弱い」と考えた。その結果、自分たちの文化を否定しキリスト教を信じることとなった。キリスト教を布教した宣教師は地域住民と交流を持ち、文字を教えた。ハワイ王朝を支えたカメハメハ王の夫人であるカアフマヌ夫人は宣教師の家を頻りに訪れたという。宣教師の中には印刷を行う者・医師・大工などといった者もいた。医師は土着の医療を自分たち西洋の医療に取り入れつつハワイアンの病気の処置を行った。宣教師の妻は生活するうえで非常に役に立つことを教えた。ハワイ女性の衣服もそのうちの一つである。布以上のような経緯をたどり、今日のハワイは作られていった。

#### 1-3-4 ホームレスシェルター

ハワイにおけるホームレスの人種別の割合を見てみると、その約40%がハワイアンである。このような現状を調べるために、ホームレスシェルターを訪問した。(ホームレスシェルターは政府からの援助金50%と寄付金50%から運営されており、土地を奪われた人、職に就けない人、家庭内暴力から逃げてきた人、精神的に問題のある人などの保護を行っている。その保護期間中に職を見つけることを勧めている。ホームレスシェルターで保護されている人々には、ハワイアンやアジア系アメリカ人、アフリカ系アメリカ人が多い。)

ハワイは狭い地域でありながら、多民族社会であり、文化も様々である。しかし民族同士の争いはほとんど見られず、異文化を理解し合っている。ハワイアンが就職時に差別されることは、多少はあるにせよほとんど無いようだ。ホームレスになる原因は様々だが、やはり主な原因としては、ハワイアンが土地を奪われていったという社会的背景が大きく関わっている。

#### 1-4 調査結果

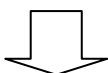
私たちは ハワイのホームレスの問題には人種差別が関わっている という仮説をたて、その人種差別には就職の際の差別が関わっていると考え調査を行ってきた。調査を進めていく中で、私たちが立てた仮説は正しいが、新たに判明した事もある。そこで、ハワイのホームレスの原因と思われるものを次に挙げる。

##### 就職の差別

ハワイアンが住む土地そのものを不等に奪われ、ゴルフ場開発などが進められる白人の土地で小作人として働いていたハワイアンが土地が開発されて職をなくす

これらのように、この問題の原因は1つと言いきれない。

そして原因も最近できたような問題ではなく・・・



文化・習慣などを含んで、歴史的経緯が深く根付いた背景の中でうまれてきた問題

であると認識した。

そもそもこの仮説の鍵を解いていく発端は、歴史調査からであった。

1778年、イギリスのジェームス・クックがハワイに来てハワイアンの生活は大きく変わった。クックはカメハメハ大王と対面し、西洋の武器などに興味を示した。そうして、ハワイは西洋と貿易をし始めた。徐々に西洋人がハワイに出入りする機会が増え、様々な文明と共に病原菌も持ち込まれた。その結果、免疫力のない多くのハワイアンが亡くなった。その後、白人がプランテーション経営を始め、ハワイアンはそこで働くようになった。この時代、アメリカは奴隷を使って労働させていた時代でもあったため、白人は上下関係を植え付けた。そして、アメリカはハワイを暫定政府とし、今では51番目の州のひとつとなっている。こういった経緯の中で、ハワイアンに対する差別が生まれてきたと言える。しかしながら、白人とハワイアンの視点には以下のような差がある

**a) 白人からの視点**

1820年、ボストンのキリスト教プロテスタント宣教師がハワイに到着して以来、布教活動を行いながら多くの生活改革を施行した。古くからあったカブー制度を廃止し、医学・印刷技術・文字・通貨を作り、人々の生活を豊かにしたという。布教の際も仲良く布教をモットーにし、ハワイアンの文化習慣を先時代的に見るのではなく白人文化の中に取り入れるという方法を取った。さらに通貨を持たなかったハワイアンにうまく布教を行うために、宣教師は宗教を伝える媒体としてさんご礁との交換という工夫をした。

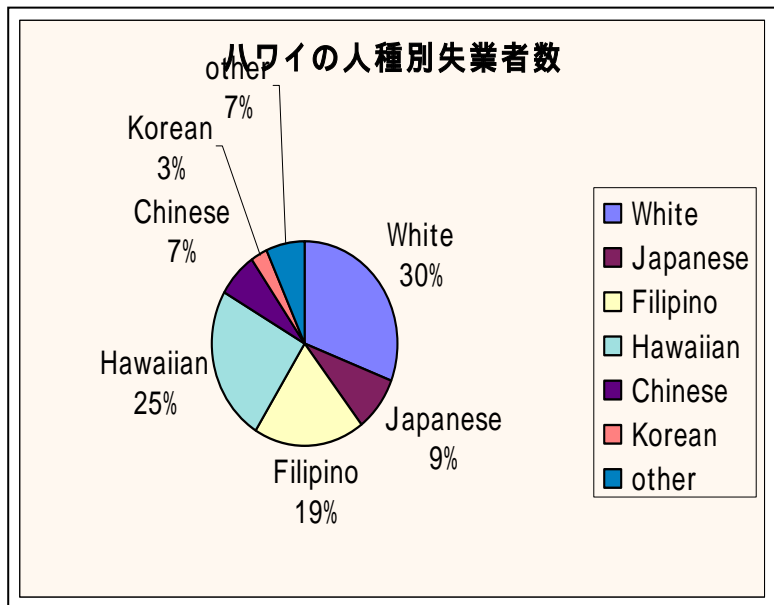
**b) ハワイアンからの視点**

白人宣教師がハワイに渡って以来、ハワイアンの土地は徐々に白人に奪われていった。当初はパイナップルやさとうきびのためのプランテーションに使われ、その後世界のリゾート地になり観光客のためのホテルやゴルフ場交通機関などのために土地を追われていったという。住む場所がなくなったハワイアンはプランテーション農場などで働くが、貧しい生活を余儀なくされた。さらに、白人が渡って以来、様々な文化習慣とともに病原菌も持ち込まれた。その結果、病原菌に対して抵抗力のないハワイアン人口は下記のようなようになった。

約120万人	25万人
(キャプテンクックによる発見当初)	

(2002年ハワイデータバンクより)

先に述べたようにハワイアンと白人の間で認識の差が生じている。まずは溝を埋めなければならない。そしてお互いが少しでも歩み寄らなければならない。白人は、ハワイの伝統文化などをできるだけ壊さないようにし、開発の際はハワイアンを立ち会わせるなどの工夫が必要であると考え。ハワイアンは積極的に、政府の保障などを知り、貧しさを抜け出すべきだ。さらに、教育にしっかり手を入れるべきだと考え。



<ハワイの人種別失業率>

人種	失業率
All races	4.6
White	4.9
Asian or Pacific Islander	4.4
Japanese	2.2
Filipino	5.3
<b>Hawaiian</b>	<b>7.8</b>
Chinese	3.2
Korean	4.7
Other Asian or Pacific Islander	8.3
Black	7.1
American Indian, Eskimo, Aleut	7.7
Other race	6.5

「ハワイの人種別失業者数」の表では、人種ごとに失業者数をだしたものを、全失業者数で割って値を求めた。白人とハワイアンの人口は、およそ二倍であったが人種別失業者数の表を見てみると全失業者数の白人が30%・ハワイアンが25%である。これは、ハワイアンの失業率の高さを示している。そして、ハワイアンの失業率の高さを示しているのが、右の「ハワイの人種別失業率」である。

## 2. 観光産業の転換期を迎えるハワイ 新たな視点の創出

### 2-1 問題意識

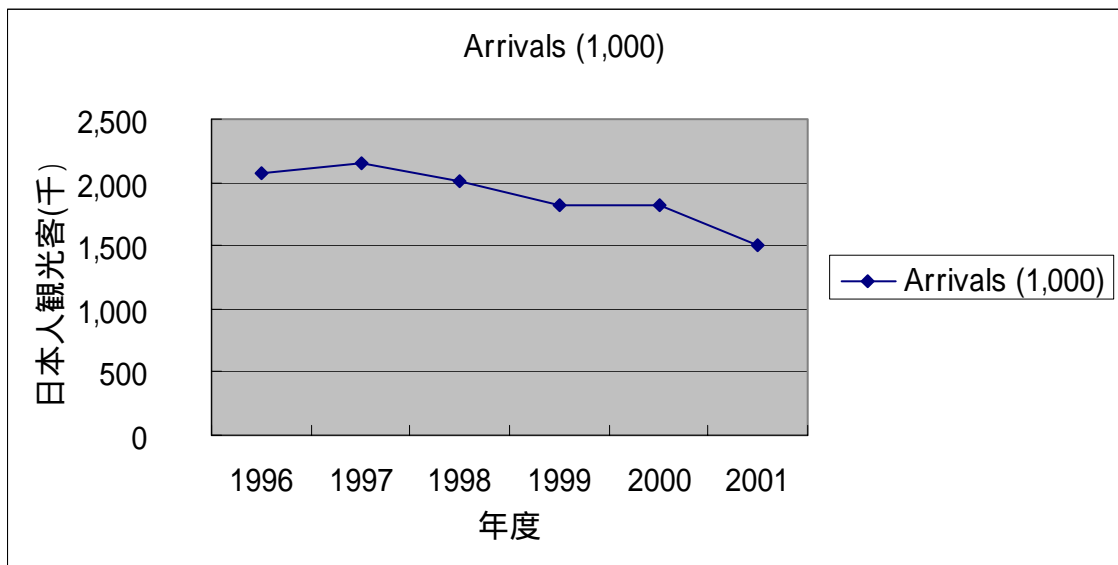
私たちはハワイの観光について調べることになった。ここでは、なぜハワイの観光について調べることになったのかを述べる。

まず私たちはハワイについて知るためにインターネット、書籍を利用し今あるハワイの実情について調べた。それにより、ハワイは観光、人種、文化の分野において問題を抱えていることが分かったのである。それは、ハワイにおける対外的な問題としての観光と対内的な問題として人種問題、異文化コンフリクトから発展したホームレス問題であった。そして、私たちはその中でも観光に着目し調査することにした。

次にインターネットや文献を調べた結果分かったハワイにおける観光についての問題について具体的に述べようと思う。

ハワイは観光産業で支えられているといっても過言ではない。ハワイの観光産業は全雇用の三分の一（政府・観光課、観光産物・小売業、観光サービス業など）を創出し、域内総生産の26%を占めている。また、税収の27%をホテル税などから賄っている。観光客数では日本人が全体の約30%を占め、ハワイの観光産業に大きく貢献している。しかし、下の表から見ても分かるように年々ハワイへの旅行者数が減少している。これは、一つは観光市場において他の観光地が台頭したため、もう一つはハワイ観光政府のマーケティング力、観光商品開発力の欠如のため、最後の一つは2001年においてはアメリカ合衆国での同時多発テロの影響のためであると考えられる。

また、ハワイは観光を押し進めていく中でリゾート開発を行っている。そこで問題になっているのがゴルフ場開発である。これは、ゴルフ場を造成する過程で山を切り崩し、森林を伐採することによって先住民であるハワイアンが農業地や住宅地として使える土地や水を浪費し、環境を汚染する化学薬品を使用することによって海やその周辺の環境を著しく悪化させているという問題である。さらに、ゴルフ場を建設する土地の中にハワイアンの先祖の墓場があるわけだがその墓場を壊してまでゴルフ場を建設するという耳を疑うような問題も発生している。



このようにハワイにおける観光産業・開発の問題についてハワイ政府がどのように考え、

現地の人に理解されると共に観光客のニーズにあった観光政策を実際に行っているかを知りたいと思った事が、私たちがハワイの観光について調査することになった動機である。

**仮説：『ハワイの観光政策は観光客のニーズにあっていない！！』**

問題意識のところで述べたようにハワイは観光産業に依存している。ということは、ハワイは観光客に来てもらわないと成り立たないことになる。しかし、前ページの表を見ると分かるように観光客は近年減少している。そこで私たちは観光客が減っているのはハワイ政府が打ち出している観光政策は観光客のニーズにあっていないからではないだろうかと考え、先の仮説を立てた。

## 2-2 調査活動

### 2-2-1 事前学習

私たち観光班は、ハワイをよく知るためにまず「ハワイ」(山中速人著)を各自で読んだ。これはハワイの歴史から現在のハワイについての問題まで細かく書かれているので、ハワイ全体の現状を把握するのに大変役立った。

次に、観光に関連する分野で各々が興味のある分野を自主学習した。一口に観光といっても範囲が広く、焦点をあてて学習するのが難しかったからである。(主な研究テーマ:水・食・スポーツ・都市・エコツアー・ショッピング)

中間発表では主に、都市とエコツアーについて発表した。

以上の過程を踏んだ上で、事前学習の最終段階として上記のように仮説を立てた。

**『仮説：ハワイの観光政策は観光客のニーズにあっていない。』**

この仮説を立証するための手段として、ハワイではインタビューを行う事になった。

### 2-2-2 現地調査

私たちは、ハワイのオアフ島で現地調査を行った。観光班の主な訪問先は、ハナウマ湾・ハワイ観光局・カイゴルフ場の3カ所である。

#### a) ハナウマ湾

ハナウマ湾はワイキキから車で東へ約30分のところにあるハワイで最も人気のあるシュノーケリングスポットである。今から約3万5千年前の海底の火山活動とその後の風雨の侵食、そして今から700年前に波の浸食作用により火口壁の一部が崩されて現在のよな湾の形になった。ハナウマ湾はハワイ初の海洋生物保護区である。

私たちはここで実際にシュノーケリング体験、従業員へのインタビューを行った。シュノーケリングは、体験する人は皆10分程度の説明を専門家から受けなければならない。これは水泳の技術的な話ではなく、ハナウマ湾の生い立ちや海を汚さないためのルールの説明である。そして2ドル払って入場した後さらに10分、同じ内容の映画を見て“教育”を受ける。そうしてやっと海まで行けるのだ。インタビューは、コストや観光客について質問した。ハナウマ湾を観光地にするための総費用は3千万ドル、年間経費は2百万ドルで観光客数は年間100万人だそうだ。運営は主に国からの支給金と観光客の入場料で賄っている。100万人も訪れると環境が破壊されると予想したが、“教育”と、湾の潮流でほぼ汚染されていないと。ここでは観光客の“教育”に最も力を入れている。そうすることによって次世代のハナウマ湾を守る努力をしている。私たちも実際“教育”を受けて、本当

にこの湾にゴミを残してはいけないと感じた。このシステムは有効なものであるようだ。

## b) ハワイ観光局

ハワイ観光局は、ハワイの観光政策を担う最も大きな国家機関である。例えば、ホノルルマラソン・アロハフェスティバル・種々のスポーツイベントはハワイ観光局の企画によるものである。これは7・8月に集中してハワイに訪れる観光客数を分散するための政策だそう。また、ワイキキに隣立するホテル数の調節・観光開発とローカルの人々とのジレンマ解消・新しい観光資源の開発などの役割も担っている。私たちはここで観光局長にインタビューし、政府の立場としての意見を求めた。主な質問内容としては、エコツーリズム・ハワイの観光政策・観光収支・新しい観光資源・観光業者についてである。

ハワイを訪れる年間観光客数は600万～700万人で主にアメリカ本土と日本からの観光客である。しかし近年テロの影響もあって観光客数が落ち込んできている。今は、日本から観光客を呼び戻す必要がある所以对日本観光政策としてウエディングに関して開発しているそう。また、ショッピングやマリンスポーツに代わる観光資源としてバケーションの一種としたエコツーリズム、学生を対象とした教育旅行・修学旅行、熟年カップルを対象とした文化旅行、企業を対象とした研修旅行を開発中である。エコツーリズムに関しては3年前からアソシエーションに補助金を出している。開発についてはローカルの人々が迷惑を被らないよう、一番神経を使っているそう。そのため、今200万ドルを使って住民の観光政策に対する意識調査をしている。また観光業者は考古学者やハワイアンを含めたエキスパートで構成されている。

ハワイ自体が観光産業に依存しすぎているのではないか、アジアのリゾートが台頭している今、代替産業としての開発は考えてないのかという質問に関しては興味深い回答が返ってきた。ハワイはマーケット自体が小さいのでハイテク・コーヒー・花などの高い価値で軽い産業を考えているそう。

## c) カイゴルフ場

カイゴルフ場では、観光現場の声を聞くことを目的とした。政府の観光政策を聞いた上で現地の声を聞いたので、比較でき大変有効なインタビューとなった。私たちはオーナーを務める日本人の歌代氏にインタビューした。彼によると今ハワイの観光が変わってきているという。今までは、旅行者が旅行代理店まで足を運び、決められたメニューの中からプランを選ぶというメニュー方式だったが、ここ10年インターネットの出現によって、このシステムが大きく変わった。旅行者がインターネットによって、自らのニーズを満たすようになってきたのである(横のつながり)。最近ではハワイの現地のコミュニティから発信されたホームページが出現し、アクセス数も急増している。ハワイに対して直接アクセスした観光者の意識が「聞いたことがある」から「見たことがある」に変わり、リアル感が増す。このような、直接旅行者に訴えかけるページは、旅行会社にとっては不利なものではあるが、このような傾向はこれからのハワイの観光にとっては避けては通れない。今コンピューターを使いこなしている10代が、20代・30代になってくると(つまり、お金を自由に使える年代になってくると)インターネットの歴史は重みを増して、インターネットによる観光産業はもっと発達するだろう。

参考

インターネットによるゴルフ場予約（1カ月間）	
1998年	30件
1999年	100件
現在	300件

（日本人観光客の予約の3分の1はインターネット予約である。）

これからは、どのようにして旅行者に観光を提供していくかが、ハワイの観光産業の課題であるようだ。エコツアーについては、アメリカ本土ではエコツアーが確立し始めているようだ。エコツアーの問題点は、少人数しか対応できず（ex：イルカ・鯨ツアーは4人が限界）それ故、費用の面でも1人200ドルを上回ってしまうケースが多いところにある。それに増して、旅行者のエコツアーに対するニーズが幅広すぎる。よって旅行代理店のオプションツアーには組み込みにくい。それ故、エコツアーにおいても個人の直接的なアクセスが増えてきている。

今までは、だまっけていても観光客はハワイに来たが、アジアのリゾートが発達してきた今、そういうわけにもいかない。観光資源をどんどん増やしていかないと日本の熱海のように、すたれていくだろう。ハワイの精神的バブルははじけていず、考えることをやめてしまっている。今が変わり目の時である。

## 2-3 調査結果

### 2-3-1 ハワイの観光政策

ハワイの観光政策は主として、政府機関として位置付けられているハワイ観光局が担っている。ハワイ観光局は、観光事業に関する計画を、広い視野、および長いスパンでもって創造し、州全体にわたる観光産業の発達と活性化に向けた取り組みを展開・管理するよう取り組んでいる。ハワイ観光局が進めている主な取り組みの一つに、Strategic Plan “Ke Kum” という計画が挙げられているのだが、この観光事業計画を軸にしたハワイの観光政策はどのようなものなのか、ということ述べ、仮説にある、「観光客のニーズに見合っているのか」ということを結果として考えていきたいと思う。

#### Strategic Plan

##### 1) Communications and Community Relations

ハワイ観光局では、地域住民との会合の機会・場を積極的に設け、住民との対話を図りながら、ハワイ観光に関する事柄を決定するよう心がけている。これは、コミュニティとよい信頼関係を築いていくことが、観光事業を成功に導く第一歩と考えているためである。例えば、リゾート開発を進めるにあたっての住民との対話や、アンケート調査を通じて住民の声や意見を知り、それを事業計画に反映させるという事が挙げられる。この他にも、オアフ島を始めとする各島で年次の講習会を行い、観光に関する情報の提供や、ハワイ観光局が進めている取り組みなどについて発表するなど、情報公開の場を設けるなどして、地域住民との関わりを大切にしている。

##### 2) Marketing

ハワイ観光局はその主要な取り組みとして、各市場への監督を行い、ハワイをレジャーとビジネスの両面からアプローチしていくといった責務を担っている。特に、ハワイ

観光の促進を図るため、世界レベルのコンペティションに参加し、各マーケットにハワイの素晴らしい部分をアピールし、顧客の様々なニーズに対応できるような取り組みに力を入れている。一例には、結婚式やエコツーリズム、家族向けの旅行プランやショッピングをターゲットしたマーケット戦略を行っている。

### 3) Events

「ハワイ」というブランド意識を生み出し、それを定着させるため、一年を通して様々な行事の計画やサポートを行い、高い質をもって国内・国外の両方にそれらを発信している。例えば、アロハフェスティバルや、ゴルフ・フットボールなどのスポーツイベント、日本人向けのファッションイベントがある。また、観光客数なども考慮しながら、行事を行う時期の検討や調整も行われる。一例を挙げると、7・8月と比較して観光客の少なくなる9月にアロハフェスティバルを行い、9月の観光客誘致を図るといったものがある。

### 4) Product Development

観光客の多様化するニーズに応えるため、農業、文化、教育、自然、スポーツをはじめとする、様々な領域に至る観光計画の創造・供給に努めている。そして、そういったものを観光客に自ら体験してもらうことで、ハワイを知り、その魅力を感じてもらいたいようだ。また、これらを体験してもらうことで、ハワイ観光局の立てる目標の一つでもある、観光客支出額の増加や、観光客の滞在期間の拡張による経済の活性化、多様化も図りたいと考えている。

#### 2-3-2 ハワイの観光政策と、現場（ゴルフ場）でのインタビューの調査の比較

政府機関であるハワイ観光局が、ハワイ観光の活性化に向けて、旅行者の多様化するニーズに対応できるだけの幅広い多種多様な取り組みの計画、活動の実施を、比較的長い目でみて展開しているのに対し、観光現場でもあるゴルフ場は、取り組みをする段階より前に、現状問題の指摘をし、それに対応できるものを打ち出すための改革が必要である、ということをも主張していることがわかった。現場の方は、旅行会社に依存している体質の指摘や、旅行者のニーズの多様化・傾向などを問題として触れ、まず現状を知り、その現状に沿って必要とされる対策を立てる（e.g.インターネット）というように、現状をより重視した対策を取っていく必要性を感じているということが窺えた。

政府の打ち出す観光政策は、とても計画的でその内容もバラエティに富んでいるが、実際にそれが観光客のニーズにあっているかということ、そうではないように感じる。今日の観光形態は、現場でのインタビューにもあったように、個性化している。自分で旅行をコーディネートするというケースが増えている今、ハワイ観光局が団体観光客をターゲットとして展開している、Eco tourism や Cultural tourism、Educational tourism といったような観光形態は、個人のニーズを十分に満たしているとは考え難い。イベントやマーケティング戦略は、団体ツアーなどには非常に有効であると思うが、個人レベルで観光する、旅行計画を立てる、となると有効性には欠けるように感じる。

以上のことから、私たちは、ハワイの観光政策は観光客個人のニーズは満たしきっていない、という結果を出す。

### 3. 政策提言 - それぞれの視点から -

#### 3-1 ホームレス問題について

ハワイのホームレスの問題には

人種差別的なものによる就職差別が関わっている、  
土地を奪われた事によって住居を失った、といった原因があるということが分かった。

#### 人種差別的なものによる就職差別

ハワイアンに対する人種差別的の大きな原因としてその貧しさが考えられる。貧しい農村部に住むハワイ先住民には明らかにアメリカの低所得者層に共通する貧困の文化が存在する。多くの家族は解体の危機に直面し児童虐待やドラッグなどの問題が鬱積している。彼らは貧困の為満足のいく教育を受ける事が出来ず、結果就職する事が困難になり、更に貧しくなるという悪循環を繰り返している。ハワイ州の公立学校の教育水準は低く多くの公立校が全国平均に比べ劣っており、中には教科書も満足に揃えられない学校も存在する。そのため白人などの高所得者層は私立学校に通わせることが多い。これにより高所得者層と低所得者層の間に教育格差が生まれている。このように貧富の差によって固定された生活様式は民族本来のものと混同され、結果「怠惰で貧しいハワイアン」といった偏見を植付け、それが人種差別、ひいては就職差別の要因となっている。

このような偏見からハワイアンが抜け出すには周りの人々が 偏見の存在に気づき、偏見がどのようなものであるか明確に認識し、 それにとらわれない行動を起こすという3つのプロセスが必要である。広報活動（マスメディア）により偏見の存在に気づかせ、教育によりそれがどのようなものであるか認識させることである。

ハワイアンの教育も充実させる必要がある。ハワイの公立学校の教育水準が低い理由にはハワイが全米でも最も教員の給与水準が低く、その為教師の質が低くなっているのが原因である。公立校の教育水準の向上のためには学校自体が予算的に自立し、教師が授業の準備不足を改善することが重要だといえる。

#### 土地の収奪による住居の喪失

ハワイアンが土地を奪われたケースには 過去の白人のクーデターによる土地の略奪、リゾート開発などによる土地の買い占めの結果起こった地価の高騰が挙げられる。

前者については近年ハワイアンの土地返還運動が盛んである。併合によってハワイ王家が所有していた土地は共和国政府に奪われ、その後州政府に移転し、その過程で白人に払い下げたり今なお州政府が保持したりしている。だから現在のハワイの土地所有権は違法に基づく所有であり、真の所有者は略奪前のハワイ王国憲法によって決めなければならないとするのが彼等の主張である。

これに関して合衆国はクリントン大統領が自らハワイに来て謝罪声明を発表しているが、その内容はハワイアンの対米請求を認めるものではなかった。実際に白人財閥など現在の土地所有者に対し訴訟を起こし勝訴するケースも稀にあるが、裁判によってホームレスのハワイアンの多くに土地が戻ってくる事は現実的に難しく、またこれにより新たな社会問題（不動産権利保険会社の混乱）も起こりうるため、現在の所有者と真の所

有者の間の交渉、合意という形によって解決をしていくのが現実的である。

次に後者についてだが最近のハワイのホームレス事情はこれに帰依している部分が多い。バブル時代に行われた日本企業の土地の買い占めやゴルフ場開発などによりハワイの地価は高騰し、それに連なって家賃も高騰し一部の低所得者層は住居を失う事になる。その中でも低所得者層の割合が大きいハワイアンが被害を被ることになった。その後、地価は元に戻ったがいったんホームレスになった彼らの生活は戻らなかった。

ハワイアンがホームレスの状態から抜け出すにはハワイアンホーム等の保障を知るだけでなく、ハワイアンに適した雇用を増やす事が必要である。その為には新しい産業を開拓し雇用を拡大する事が必要である。

### 3-2 観光政策について

#### ハワイ観光政策提言

ハワイ諸島は太平洋の真中に位置し、世界でも地理的に孤立している。しかし、実際にはハワイに向けて週に何十便も直行便がでており、毎年 200 万人の日本人がハワイに訪れている。常夏のハワイは日本人にとってリゾート地の代名詞であり、一方ハワイ州民にとって、訪れる観光客は生活の糧である。なぜなら、ハワイで就労している人の 65%が何らかの形で観光産業にかかわっているのだ。観光産業はハワイ経済を大きく左右する要因であるといえる。

調査結果から州政府の観光政策と地元業者(ゴルフ場マネージャー)の声を比較すると、両者の間に考え方の違いがみられた。1999 年から開始されたHTA(ハワイツーリズムオーソリティ)の観光政策は、団体観光客をマーケティング対象にしているといえる。例えば、日本でハワイへの修学旅行誘致が熱心に行われている。その背景には、海外に修学旅行に行く高校が年々増加してきていることがある。若年層にハワイの歴史や文化を学んでもらうことで、バカンスのためだけでなく、文化を楽しむために訪れるという動機を持ってもらうのが狙いである。これは具体的には、education tour や culture tour、eco-tour といったような「もうひとつの観光」と呼ばれる観光形態で展開される。

一例としてはポリネシア文化センターがある。タヒチやパプア・ニューギニアなどのポリネシア地域の文化を紹介する文化エンターテイメント施設である。この施設を運営しているのは、私立大学であり、園内のスタッフは学生が中心である。ポリネシアの島々から来る留学生は、各々の独自文化を衣装やダンスで披露するのだ。これは観光客を楽しませるだけでなく、島の若者が伝統を受け継ぐ手段としてすばらしいものだと感じた。また、学生は働くことで授業料の一部が免除され、施設収益は大学に還元されている。これは新しい産学連携の形である。しかし、この施設の問題は、オアフ島の裏側に位置することから交通の便が悪く、施設内では基本的に団体行動であることだ。外国で車を運転することに不安を覚える人が多いため、施設に行くためにはツアーを選択することになる。つまり、個人でいくのが困難なのだ。

個人向けの商品が少ない点を地元業者のゴルフマネージャーは危惧している。旅行者のニーズが多様化し、個人旅行が増加している現在、HTAの政策と旅行者のニーズがかみ合っていないという批判をしているのだ。近年、日本ではインターネットが急速に普及し、

ここ2,3年で旅行の形態が大きく変化しようとしている。従来では、旅行代理店の提案したメニューからプランを選択するのが主流であった。しかし、インターネットの普及とともに観光客自身がハワイの現地業者と連絡をとってプランを立てていく傾向がでてきている。すでに述べられているように実際、ゴルフ場でもインターネット予約が急増している。日本から近くて安くすむアジアリゾートが注目されている現在、ハワイが観光地として生き残るには、日本からの観光客を旅行代理店に依存しているHTAの体質改善に早急に取り組む必要性がありそうだ。そのためには、他では体験できない独自の観光資源の確立と多くの日本人が持つ

「ある程度日本語が通じる、安心感」、「安全性の高いハワイ」

のイメージ強化が必要になるだろう。2002年9月におきたインドネシア・バリ島でのテロは、リゾートでの安全性を否定するものであった。ハワイがアメリカである以上、テロの危険性は他地域より高いと感じる人が多いだろう。どれだけ安心感をアピールできるかが中高年層のインセンティブにつながる。「日本語が話せるスタッフが多くいる」というハワイが他域より優位にある点のアピールが第一に重要なことである。

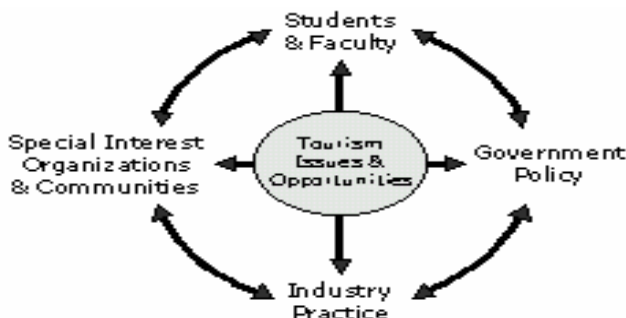
次に、HTAの施策が有効に働いているかをみる。HTAの考える観光商品は、すでに上記で挙げたイベントや「もうひとつの観光」に加えマリンスポーツやウエディングである。ウエディングについては、海外で挙式する日本人の大半がハワイを選んでいる。実際に、「カテゴリー別の1日あたりに使うお金」をみると、日本人はshoppingに圧倒的にお金を使っている。これは米国人の2倍にもなる。続いて宿泊代、食費、雑費交通費、最後にentertainment 娯楽である。HTAの観光戦略が開始されて3年になるが、日本人のentertainmentへの出費は米国人と比較して2分の1にしかならず、横ばいのままである。また、政府の推奨するアロハフェスティバルや日本人向けのファッション・ショーなどのイベントは、それ自体がハワイに行こうというインセンティブにはなりにくい。このことから6~8月に集中する観光客を分散させるために開催しているアロハフェスティバルが有効に働いているとは考えにくい。一年を通して観光客を呼び寄せるためにはハワイのイメージを多様化させることが必要である。

ハワイは海のリゾート地だが中高年層がマリンスポーツに積極的参加をするのは考えにくい。特に中高年層は、他地域にはない「安心感」をハワイに求めてきているのだ。外国ではあるが、日本にいるように過ごせる気楽な環境がハネムーンや家族旅行の行き先として人気が高い要因である。

現在、購買力がある日本人中高年層はショッピングやゴルフが主な滞在中の行動である。しかし、早急に新しい観光商品アピールを展開していかなければならない。なぜなら、ショッピングをするだけならアジアリゾートのほうが魅力的であるし、テロの影響で「安心感」もゆらぎはじめているからである。安心感にプラスして中高年層に受け入れられやすい「もうひとつの観光」を積極的にアピールしていくことがハワイブランドを持続させていく道のように感じる。

観光は州の最大産業であることから、その政策や方向性には注目が集められる。産学の連携として、ハワイ大学ではSTEP-UPという持続可能な観光旅行&環境プログラムが研究されている。また、HTAはコミュニティとの連携を深めていく方針を打ち出している。今

後、観光を考える際、さまざまな機関や団体、コミュニティの協力なしにはハワイブランドは成立できないだろう。



H T Aの今後の具体的な方策として、ハイテク関係の企業誘致、イベントの実施、education tour や culture tour、eco-tour (ハワイの文化、環境教育) などさまざまな企画がある。また、小学校では観光業に関する副読本を使用し、観光への認識を子供のころから高めて州の産業として観光業を扱っている。子供のころから観光に対する深い認識をもっていれば、資源や観光商品など観光に対する関わり方も変化してくるのではないだろうか。

### 3-3 全体を通して

私たちはハワイの社会問題となっているホームレス問題と州の最大産業である観光を組み合わせることを考えた。なぜなら、これからもハワイを「観光地」として売り出していくなれば、観光産業で雇用を生み出す必要があるからだ。また、ホームレスの大きなパーセンテージを占めているのはハワイアンである。ハワイアンの歴史的な差別、貧困問題と観光資源のマンネリ化の2つのマイナス要因をかけあわせることでプラスにしようと考えた。この提案の観光としては education tour, culture tour, eco-tour が主になる。これらの観光形態はハワイアンが持っている知識や歴史、文化が商品となる。ハワイアンが観光客のガイドになれば新しい雇用が生まれ、自らの文化や歴史を伝えることはハワイアンのアイデンティティ向上にもつながる。また、多民族社会であるハワイの観光地としての優位性も持たせることができるのではないだろうか。

culture や educational、ecotourism 的視点のツーリズム振興は結果的にハワイアンを救済し、雇用創出、多民族社会であるハワイの観光地としての優位性を持たせることができると考えられる。つまり、マイナス要因をプラスかえる可能性を秘めているのだ。

## おわりに

私たちが二週間滞在し満喫したハワイ。これまで述べてきたような事実がハワイの全てではないが、今回の調査によって、ハワイの表面的な部分だけではなく内面の実情や裏側の部分、さらには外部への働きかけまで知ることが出来た。それはただ単に観光目的に訪れただけではわからない部分であったらと思う。

確かにハワイには華やかなイメージがあり、「パラダイス」・「リゾート」などというキーワードがピッタリあてはまる観光地であった。しかしながら視点を変えて異なった角度からハワイを見てみると、まだまだ山積みになった問題が存在していることがわかる。そしてその山積みの問題には観光地として外から見るハワイという視点からだけではなく、ハワイ内部の視点からみた問題も多く含まれていた。一見バラバラにみえる問題が実は綿密に絡まりあっているのだ。ハワイにおける観光地としての問題が、歴史背景などが因果しているホームレス問題と関わりがないようだが、これは新たな観光政策で雇用を増やすなどしてホームレス問題の解決に近づくことができる。またハワイの観光政策にも歴史はあり住民と政府との争いなどは、対内外どちらの問題にも発展している。今後は、ハワイ全体の社会を上手く創り出すことが必要になってくる。

またハワイにはたくさんの素敵な魅力があった。それを求めてたくさんの日本人が住んでいることも知った。今後はその魅力を十分に引き出し、今までのハワイのスタイルを転換させていくことも重要である。

今まさにハワイは生まれ変わらなければならない時期を迎えている。時代は常に変化し続けている。それに追いついていけるか、順応できるか。観光地として観光客をずっと惹きつけておき、なおかつ飽きさせずにするためには多くの努力が要る。また地域住民も含めた全体の一体感も必要である。訪れる人々がいるから迎える人々もいるのだ。どちらのニーズにも合ったハワイづくりはなかなか難しい。しかしながらどちらもハワイには欠かせない人々であることは確かだ。訪れる人にとってハワイが「パラダイス」なように、ハワイに住む全ての人にとっても「パラダイス」になるようなハワイに生まれ変わることができればいいと考える。ハワイの表面も内面も裏側も「パラダイス」になれば、山積みになった問題が少し減り、新しいハワイが創り上げられることになるだろう。

このハワイフォーラムでハワイに関して調査していくうちに、ハワイをたくさんの視点で見ることができた。これらは視野が狭ければ決してみえてこなかったであろう。色々な方向からハワイを感じ取ることができたからこそ視野が広がったといえる。これからのハワイの発展が楽しみであると同時に今後のハワイに期待したい。

## 付：ホームページ概要

### 1. はじめに

ハワイに対して多くの人々が「楽園」というイメージを持ちつづけている。また実際多くの観光客がハワイを訪れている。しかしハワイは多くの社会的な問題を抱えている。それは、環境問題、ホームレスの問題、経済問題であったりする。

私たちは2002年、夏に実際にハワイに赴きその実情を見てきた。ハワイ州観光局長、一般観光業者の方の御話を伺ってみて、私たちが今期前半にハワイについて調べていたこと、問題は存在することを確信し、どうすればよいかを考えた。

そんなさまざまな問題が存在するハワイに、私たち観光客は存在する問題を見ようとはせずただ「楽園」を求めているのではないかと思った。ハワイにある問題の多くに観光客が関わっているということを知らずに・・・。

ホームページでは私たちがハワイについての研究成果と共に、私たちが実際にハワイにいったすばらしいと感じた物を紹介にした。特に日本人の多くはハワイの中の「ワイキキ」という場所から出ようとはしない傾向にある。ハワイにはたくさんのすばらしい場所が存在する。私たちがその多くを見てきたわけではないが、すばらしいものを発見する旅の第一歩を助けられたらと思う。またこのホームページを見てもらえた方々に、ハワイに行ってみてみたいと思っただけならばそれに勝るものはない。

### 2. ホームページの内容

- ・ 仮説 研究成果
- ・ スケジュール
- ・ ハワイ文化紹介
- ・ フォーラムのメンバー紹介
- ・ 観光日記
- ・ リンク



### ホームページアドレス

<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/~inabam/class/hawaii/web/2003/>

**参考文献**

山中速人 「ハワイ」岩波新書 1993年

Hawaii Tourism Authority 2001 Annual Report to the Hawaii State Legislature

**参考 URL**

<http://www.smn.co.jp/insider/community/hawaii/rep/01.html> 「屈辱の百年を越えて」

<http://www.babel-unv.org/hawaiitayori/tayori1002/senkyo-kimura/senkyo-kimura.htm>

「ハワイ州だより」

<http://www.asahi-net.or.jp/~cr1h-ymnk/hayatojp.html> 「YAMANAKA RESEARCH」

<http://www.wwf.or.jp/index.html> 「ハワイ州データブック2001」

<http://www.hawaii-tourismstudy.com/> 「Hawaii tourism study」

<http://www.hawaii.gov/dbedt/latest.html> 「research economic analysis division」